



雲青き

さいたま市立大成中学校 学校だより

3月号 令和7年3月4日

可能性を伸ばす考え方

校長 福田 博志

梅の花の香りと日を追うごとに膨らむ桜の蕾に春の気配を感じる時季となりました。早いもので今年度を締めくくる最後の月となりました。学校では、年度末をしっかりと締めくくるとともに、新たな年度へ向けて準備をしているところです。保護者及び地域の皆様には、本校の教育活動に対するご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

さて、自分の可能性を伸ばしていく考え方について、感銘を受けた話を紹介します。



アメリカのスタンフォード大学の心理学教授であるキャロル・ドゥエック氏によると、自分の能力についてどう自覚しているかで、人は二つのタイプに分かれるそうです。一つは「人間の能力は生まれつきで、努力しても限界がある。能力は固定的で変わらない。」と考えるタイプで『硬直マインド』といいます。もう一つは「人間の能力は強い意志と努力を重ねることによって伸ばすことができる。」と考えるタイプで『しなやかマインド』といいます。

この二つのマインドを比較してみると、『硬直マインド』の人は、周りの人に自分をよく見せたい、自分の力を誇示したいと思う傾向が強いため「恥をかくから失敗したくない」と考え、「難しいこと、困難なことはやらない」と行動にブレーキをかけてしまうそうです。一方、『しなやかマインド』の人は、能力は努力によって伸ばすことができると考え、成長することを目的に努力するので、たとえ失敗してもそれを成長へのチャンスととらえ「次こそは」と新たにチャレンジするそうです。

また、心理学の先生によると、小学生の頃『しなやかマインド』だった人が、中学生になると『硬直マインド』になってしまう人が多いとのこと。原因として、周りの人の影響で「そんなの無理だよ。夢みたいなこと言ってるんじゃないよ。」という消極的な周囲の声に対して「そうだよな。無理だよな。」と思い込んでしまい、自ら制限をかけてしまうからだそうです。

自分の可能性を伸ばすか、削るかは、自らの考え方によるところが大きいということです。思い通りにいかない、うまくいかない時にこそ『しなやかマインド』で人生の試練を乗り越え、自分の可能性を伸ばしていきましょう。

この3月から4月にかけて卒業生は新たな進路へと進み、在校生は進級します。それは、人生の大きな節目であり、自分自身を変える大きなチャンスでもあります。これからの人生は、考え方一つで大きく変わります。簡単に限界をつくることなく、自分の夢や目標に向かって、前向きに粘り強く努力を続けてほしいと願っています。

校長室に大成山普門院元住職の阿部道山和尚の書「歲月不待人」（歲月人を待たず）があります。たゆまず勉学や仕事に励み、機会が巡ってくれば思い切って行動を起こしていきたいものです。